

タカの渡り全国ネットワークの取り組みと今後の展望

熊崎詔之（タカの渡り全国ネットワーク事務局）

1. タカの渡り全国ネットワーク (Hawk Migration Network of Japan) 設立の経緯と主な活動

2000/8/27-27 に長野県奈川村（現松本市奈川）で実施されたタカの渡り全国集会 in 信州 2000 にて、全国ネットワークが提案され 2000 年秋期調査から試行運用開始。2001/11/17 第 2 回全国集会 in 千葉我孫子にてタカの渡り全国ネットワーク（以降 HMNJ と省略する）の正規運用が承認され現在に至る。その間 2005 年まで毎年全国集会を開催。WebSite の運用、各地サイトとのリンク処理にて全国各地の定点でのタカの渡り情報公開を実施し、調査の円滑化を図る。その間、主要調査地でもある鳴門展望台の存続活動支援、現在は風力発電施設に伴う保全活動にも参加している。

- HMNJ 参加サイト数(広島タカ渡り研は 1 サイトでカウント) : 70 サイト
- 事務局は 2005 年より 4 名。会費制は設けずカンパで運用し、規約は設けずデータの権利はすべて各調査地に帰するものとして緩やかな結びつきのネットワーク運用をおこなっている。

2. HAMJ の情報公開の意義と今後の課題について

昨年 2005 年の岐阜集会では定点調査地のあり方、HMNJ の意義について話し合われた。その結果、アマチュア(市民)である隔たりのない特性を生かして得意な分野で作業分担し各自が楽しみを持ちながらやることにより継続可能で、かつ調査に目的を見出すことが必要であると提案された。

また、風力発電においては即応が必要な課題であり、その中でもすぐに可能な HMNJ への要望として国際鳥類保護組織バードライフ・インターナショナルが進める I B A (Important Bird Area) へのタカの渡りハザードマップ製作について提案があった。このため、これに案として取り組み今期中に一般公開できるように検討を進めた。

3. タカの渡り重要通過・中継地の選定

選定は主なタカの渡り種別に検討した。代表種はオオワシ、オジロワシ、サシバ、ハチクマ、ノスリ、アカハラダカの 5 種とし、HMNJ 参加サイト別、春、秋の季節ごとに最大通過総羽数と 1 日ごとの最大通過羽数を抽出した。

重要通過地の選定方法は IBA での選定基準に記載されている基準 4 i.) 「群れを作る水鳥の生物地理的個体群の 1 % 以上が定期的に生息」を参考に、今回抽出した各季、各サイトの最大通過総羽数の 1 % を超える場合を重要サイトとした。結果は 62 サイトを指定。詳細は下記のとおり。

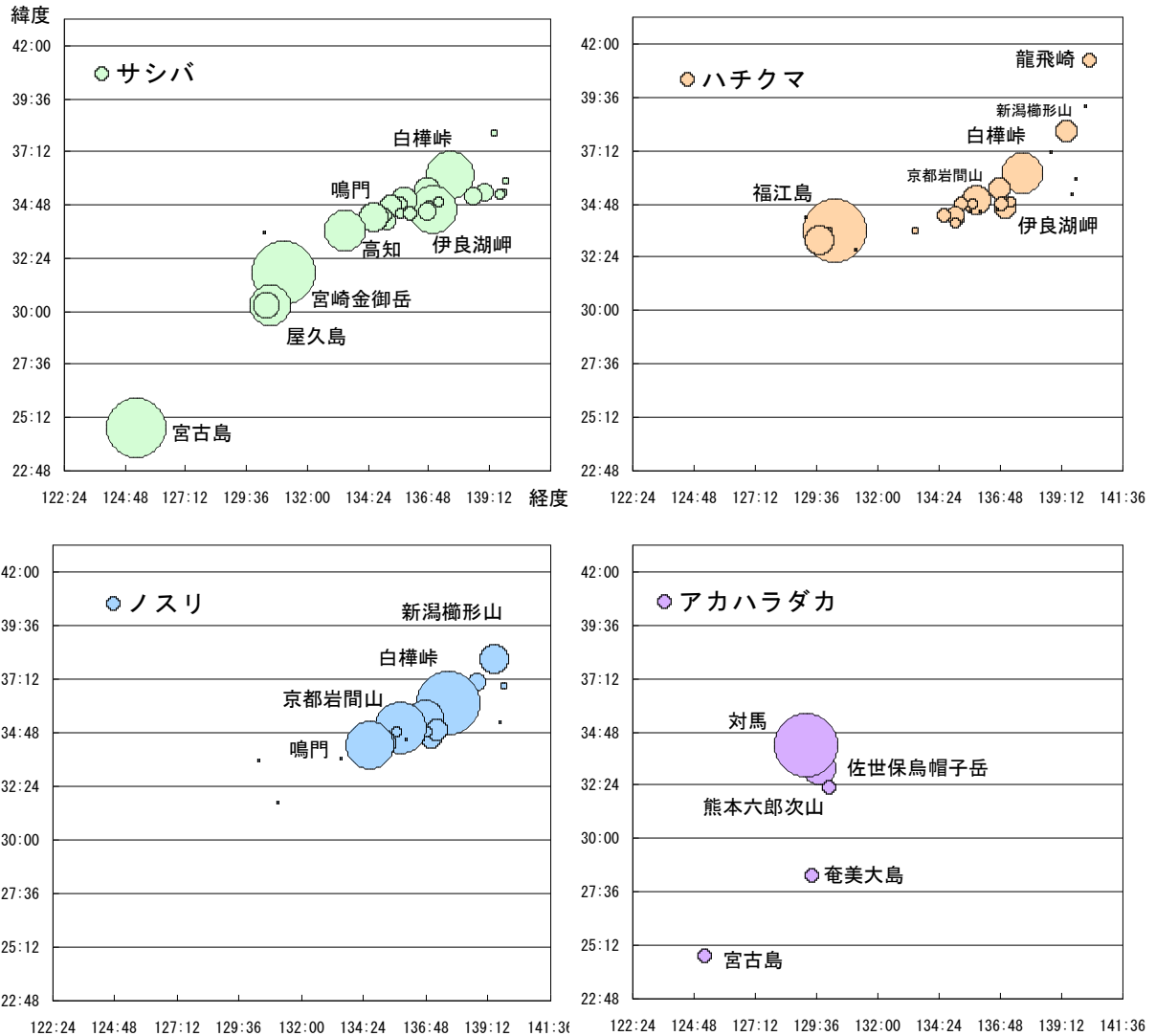
表 1 種・季節別ワシタカ類渡り通過中継サイト数一覧

	オオワシ	オジロワシ	サシバ	ハチクマ	ノスリ	ツミ	ハイタカ	アカハラダカ
春期指定サイト数	1	2	17	12	7	10	7	—
秋期指定サイト数	—	—	31	22	13	11	18	7

(データは HMNJ 報告書より 2000 秋～2003 秋までを使用。)

現在整理中の記録もあり発表時点では最新データで発表予定である。また、HMNJ のデータ使用許可を各調査地から了解を得る必要があり、現時点では案の状態では正規なものではありませんのでご了承されたい。最終公開は 2005/11 の HMNJ 広島全国集会にて承認を得る予定。

図 1：種類別 HMNJ 参加定点調査地の通過状況（秋期）



注：ハチクマの記録は広島県内データは未記載であり伊良湖岬データは非公開のため 1 年の記録例。また、円の大きさは種ごとに割合が異なる。

以上